

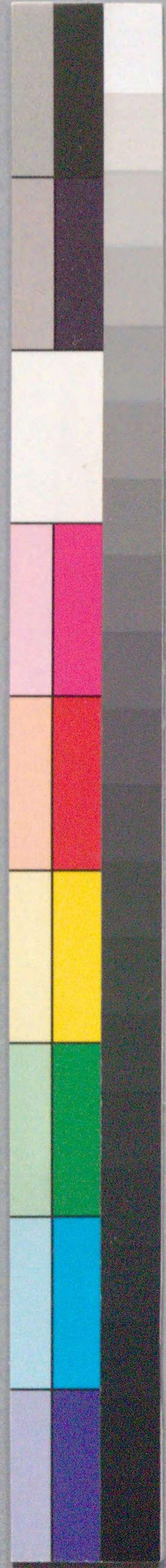


208  
285

三鼎倭孔明  
全







三鼎倭孔明

舟

年一...  
陸酒...  
...

208  
285





繪本三鼎倭孔明序

武經七書同左宗同右曰唐左宗新羅  
宋人給兵士少地理遠者何術と云くら  
侍臣靖探知謹曰下官正兵と諸葛亮が七度孟獲を  
兼るんと靖とて夫正兵と諸葛亮が七度孟獲を  
奪りしと他道なり是正兵なりと  
本朝少と義經  
七の無傳を學べ其のら楠正成又は法と師畧軍  
配し軍軍場地利を滞し景迹孤圖畫し上小崎  
終とはるまて東臺乃眼成始し其目ハ悪と懲し善を  
勸む於一助みとかりかんことを冀ふの

睦酒亭老人誌









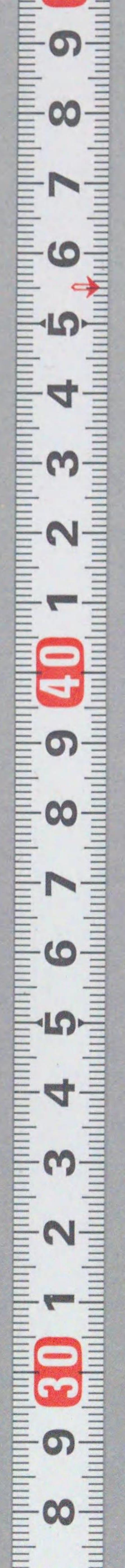
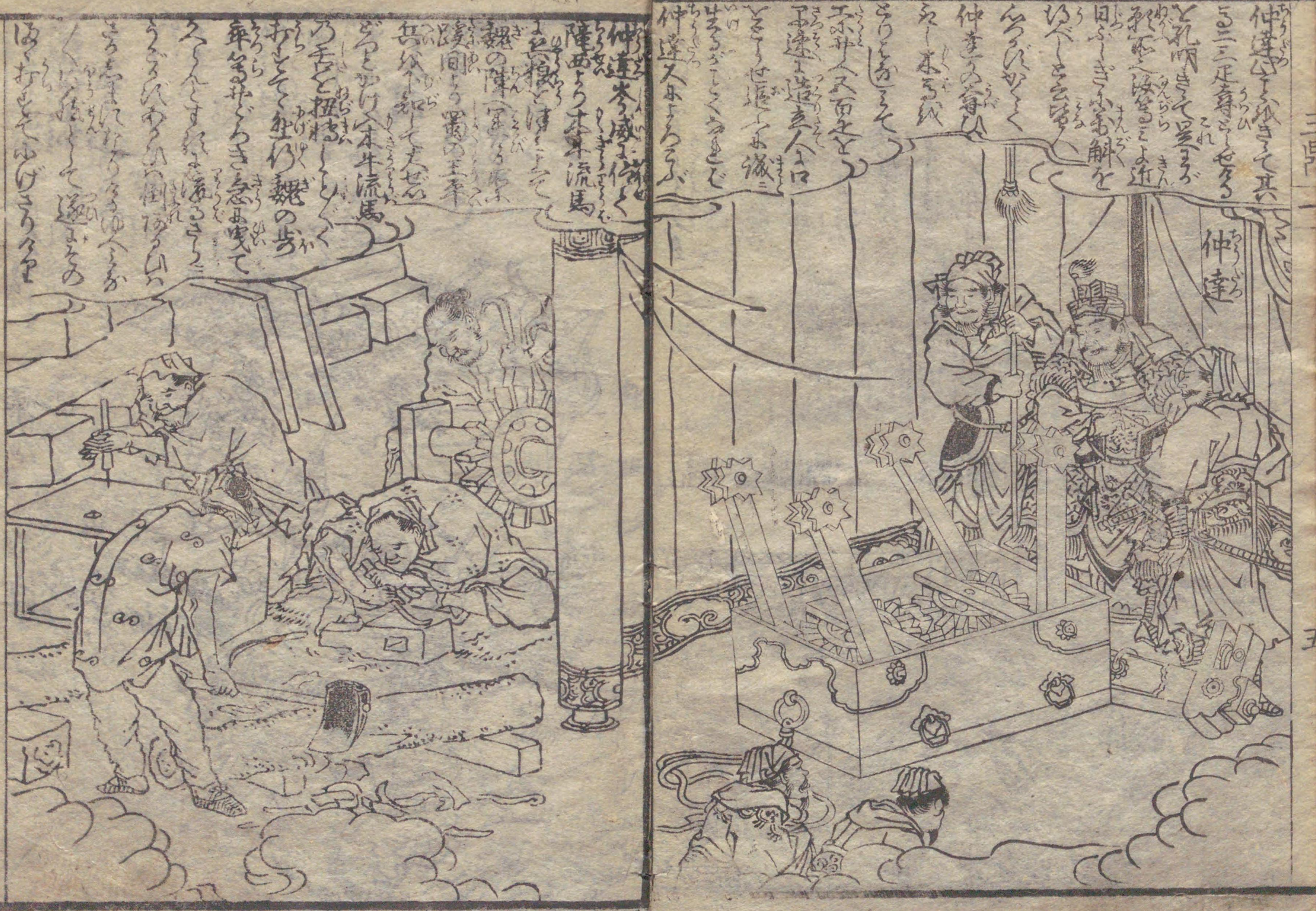








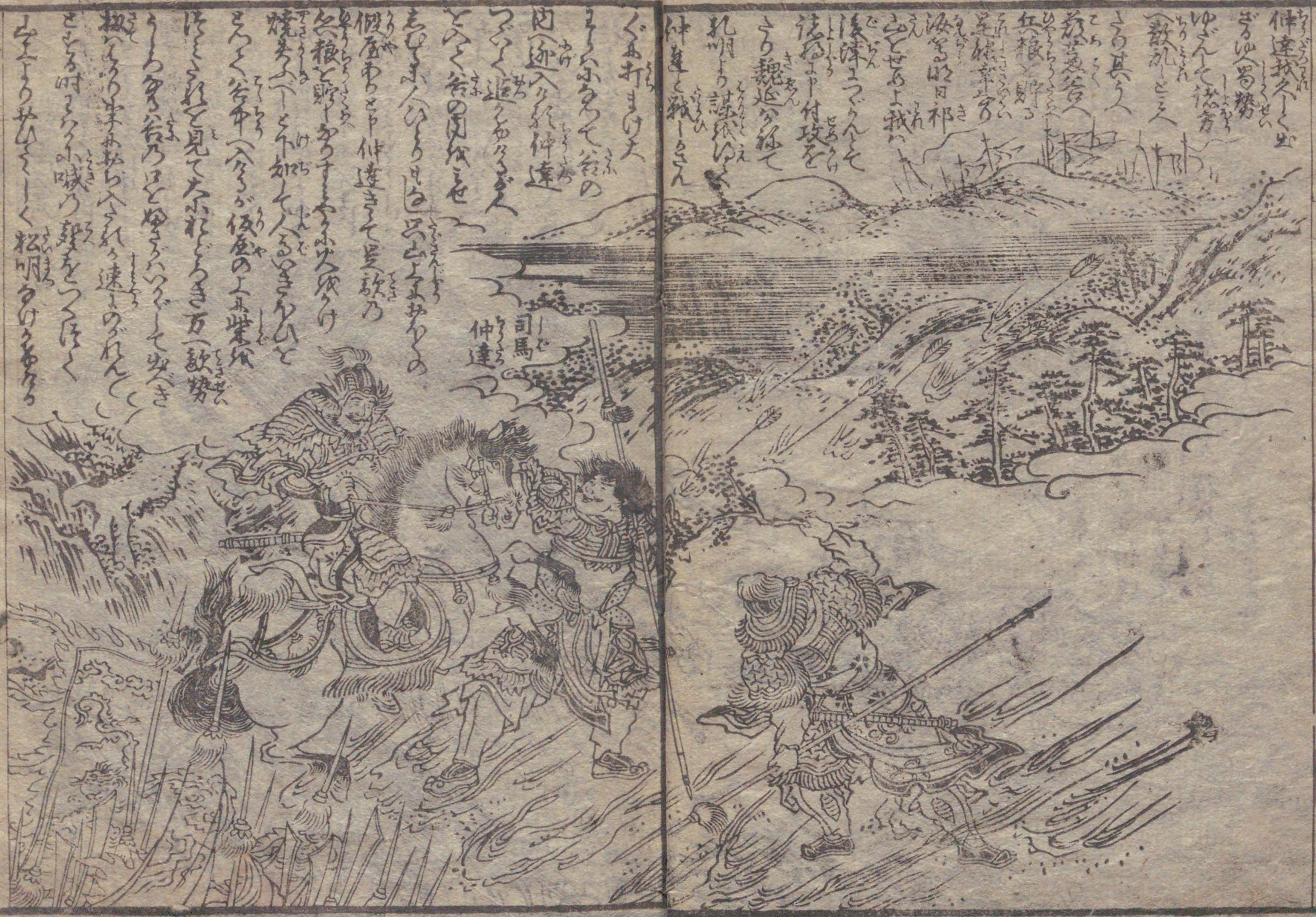






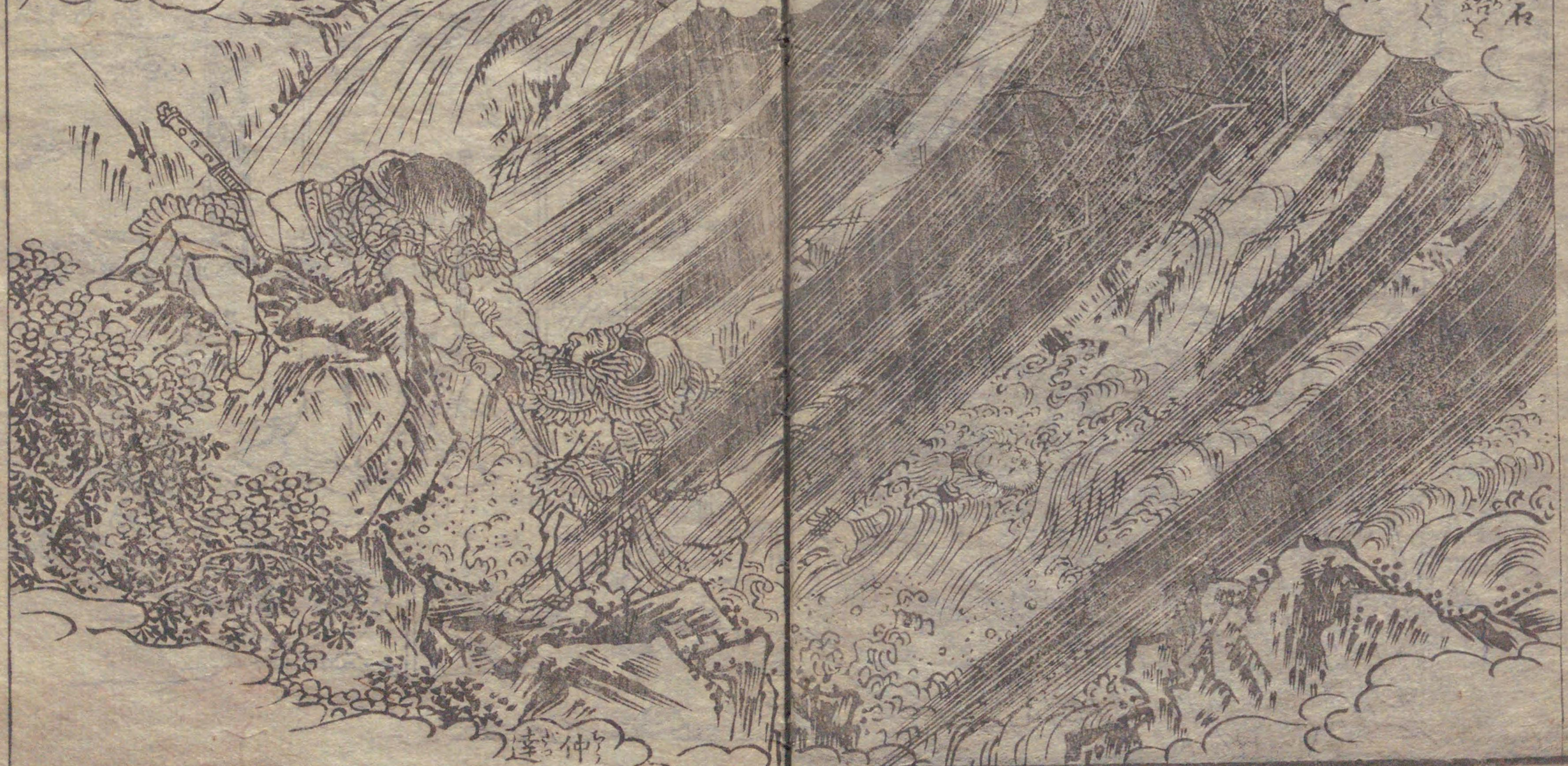








其ひまふ跡先の谷乃只大石  
 大木成路しく投せし通路と  
 ゆきまふ其中ほしくく  
 硫黄燐硝と埋せし火の  
 火を天をさかひかき  
 傍の樹林は極火となり  
 黒煙谷中ふへまじ  
 夕杖を先へまきし  
 本年賊死りの大木ふ  
 おろし仲達今や  
 心は馬よりちりて  
 二人乃ふ瓜たふふ  
 抱くえおと  
 仲達天作の作のい  
 たり我々今此下  
 再非命の死受  
 あり悲憫とよま  
 今命を全せん  
 頻々笑しれん  
 命を全せん  
 忽狂風おろし  
 せり雷声おろし  
 こそわき急な漲り  
 谷中遊のま大い  
 乃おろし火炎  
 しく消し仲達  
 父子幸き命救助









孔明はかて既く西日本  
 へいひつる主燈とてあつた  
 姜維帳外あつていふ  
 お護して帳中へ何ひも  
 とし將星成押し  
 り祈してあつた  
 乃れ頃陣外へ喊  
 の声ひびく同ゆ  
 姜維人として云ふ  
 甲へえはつて魏延あつ  
 だしくまゝの仲違何  
 かりひんまをせよ  
 其後霸二ふ余騎にて  
 攻きつりしつ



孔明はかて既く西日本  
 へいひつる主燈とてあつた  
 姜維帳外あつていふ  
 お護して帳中へ何ひも  
 とし將星成押し  
 り祈してあつた  
 乃れ頃陣外へ喊  
 の声ひびく同ゆ  
 姜維人として云ふ  
 甲へえはつて魏延あつ  
 だしくまゝの仲違何  
 かりひんまをせよ  
 其後霸二ふ余騎にて  
 攻きつりしつ



其後霸





生得魏延は子謀しき者  
 かりんああらとままりりる  
 望むいあやまて主灯と  
 ふとけいなる星をこく  
 孔明をけりて嘆曰  
 死生有命富貴在天  
 至燈消るる我命は限  
 分りぬる姜維こそと  
 奈のり魏延を伏令と  
 する孔明は止あこ  
 天命の終ちり魏延  
 が過ぬらば仲達我病  
 とえしてんうへあふと  
 うきり治早く文  
 魏延



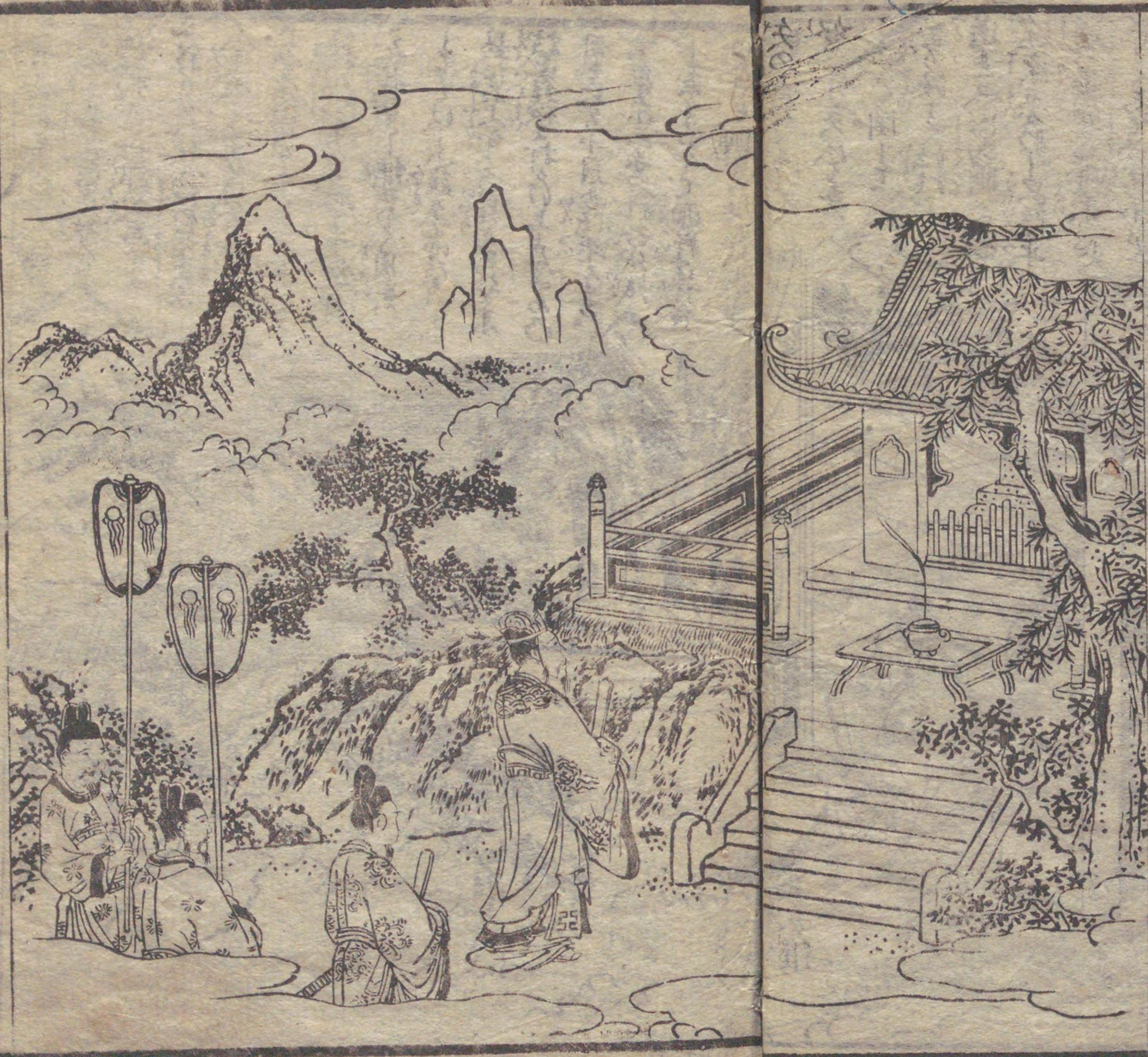
其後魏延は子謀しき者  
 かりんああらとままりりる  
 望むいあやまて主灯と  
 ふとけいなる星をこく  
 孔明をけりて嘆曰  
 死生有命富貴在天  
 至燈消るる我命は限  
 分りぬる姜維こそと  
 奈のり魏延を伏令と  
 する孔明は止あこ  
 天命の終ちり魏延  
 が過ぬらば仲達我病  
 とえしてんうへあふと  
 うきり治早く文  
 魏延











蜀後主劉禪孔明とあつくまろしめ給ふされば唐の代めつれまを麻あはふ  
 裁さりし 栢木はくもくののまろしまるる 杜子美とくしのの詩しをを題だいするる 詩しのの目め  
 丞相祠堂何處尋  
 映階碧草自春色  
 三顧頻煩天下計  
 出師未捷身先死  
 長使英雄淚滿襟  
 錦管城外栢森々  
 隔葉黃鸝空好音  
 兩朝開濟老臣心



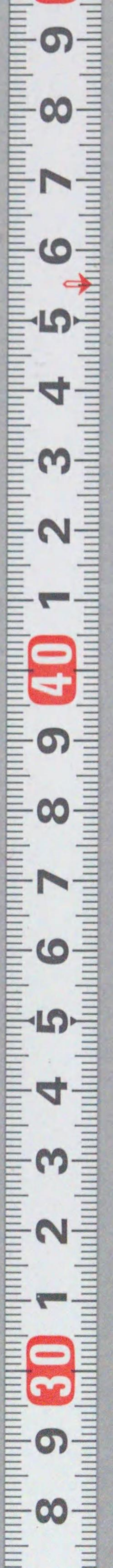






二火初興有人越此  
 二士爭衡不久自死  
 鄧艾之終必由之終  
 九拜之貴  
 孔明之明  
 神人分り以是時  
 乃神人調へ

二火初興有人越此  
 二士爭衡不久自死  
 鄧艾之終必由之終  
 九拜之貴  
 孔明之明  
 神人分り以是時  
 乃神人調へ





義経の軍の秘策を  
 秘す古の奥と詰りの  
 以軍急送し其の  
 公才不具の難明を  
 中土橋して張良と  
 半形を兵法の  
 小あり二度二回量三回  
 数四回八回勝りの度  
 の地理遠近險易廣狭  
 と度陣を  
 一級制才三才  
 馬さそ身休早業  
 忍の秘力の録と  
 守て階の  
 堀のれまあり



この校敷乃俄小  
 強の君の若人  
 初下蛙の鳴止  
 りく人の身は是  
 夏の徳之又所  
 舟灯のひらめく火  
 此方へは  
 長は我輩  
 の赤  
 舟の  
 一  
 山本  
 これを









義経の谷を類  
 実持のとき打  
 小の長刀とね  
 へた故実あるを  
 して腰物も拾り  
 ゆる卒といふおわり  
 足頭定換乃  
 したるの卒と頸の  
 うらに実をそれ  
 髪とにきりそて  
 ゆえ小卒といふ  
 こと故実ありとて



三門四下  
 方と外に観音  
 陽の方釈迦不動  
 此七星の物見  
 あり内小八併  
 を納む中央  
 と大目と一陰乃  
 見といふ又合根  
 録存巨門  
 廣貞文曲  
 破軍武曲  
 義経





甲寅六丁(甲)孔明傳  
 知極の天文地理也  
 委しはは兄の不忠を  
 高麗を攻むるに  
 良侯を討死せし  
 作て城火をけ  
 欺きし津程  
 の漢の地味(甲)  
 はらへしをりてまのけ  
 ののの剛祖と  
 作るを志すより  
 同卒の風俗をり  
 言はれ通をり  
 今もて義経の



義経  
 入道

三戸一匹  
 虎のくろくろの敷と  
 恐るるも爪牙の  
 尖りあふれどわん  
 ち大羊れあふ慢  
 らくもや家小奥  
 又位主郡小まら  
 壺碑とふの  
 三戸一匹の  
 尺四寸厚中方を  
 二尺六寸厚方を  
 尺の長満たの  
 程と誌せり其味は  
 夷と云く一百万の  
 兵を率て秀平と  
 小此(甲)の蝦夷の

西  
**多賀城**  
 去京一千五百里  
 去蝦夷国界一百廿里  
 去常陸国界四百十二里  
 去下野国界二百七十二里  
 去群朝国界三千里  
 此城神龜元年歲次甲子按察使兼鎮守將  
 軍後四位上勳四等大野朝臣東人之所置  
 也天平寶字六年歲次壬寅參議東海東山  
 節度使從四位上仁部省卿兼按察使鎮守  
 將軍藤原惠美朝臣朝舊修造也  
 天平寶字六年十二月一日

三戸一匹

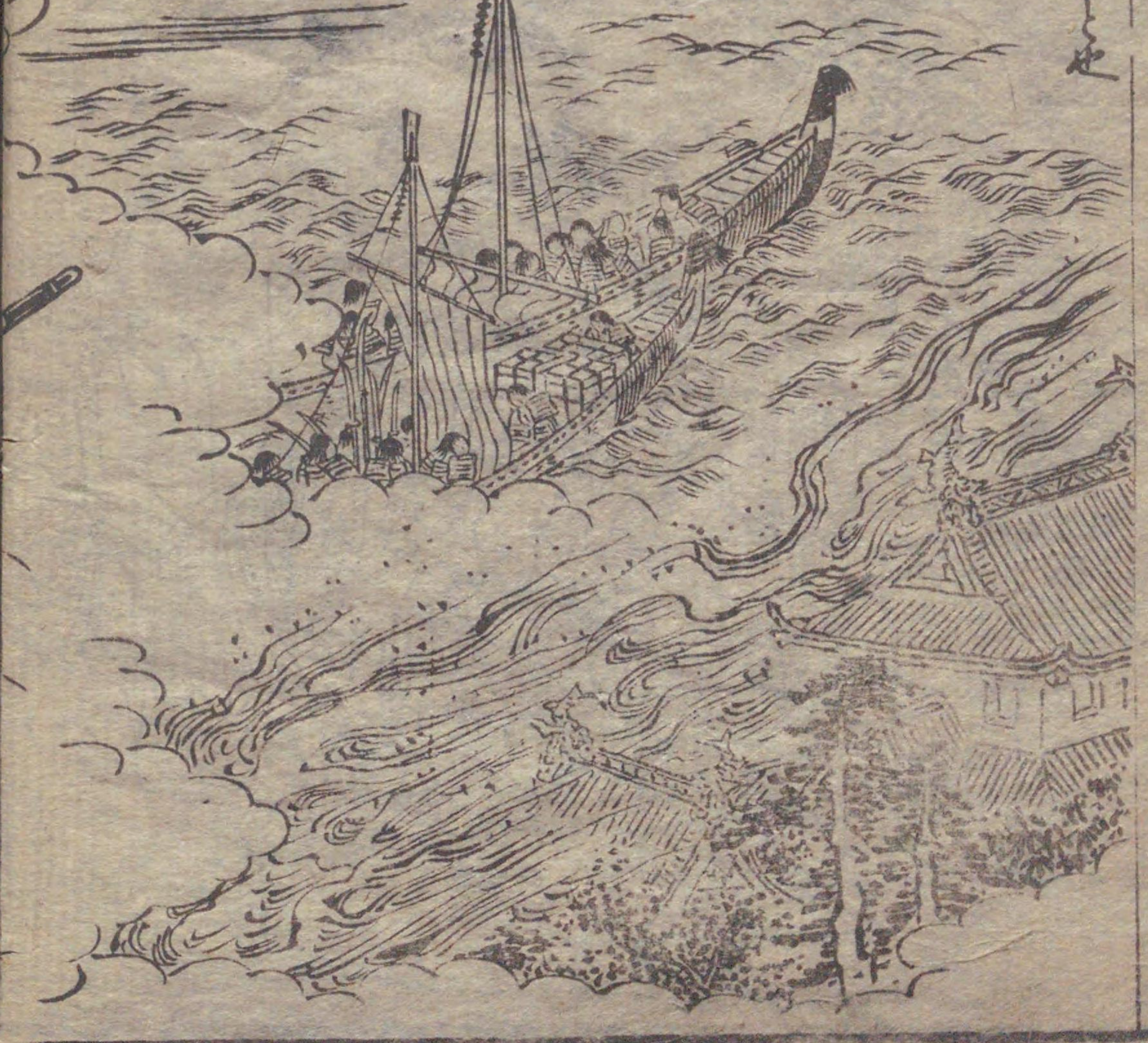
十六



三鼎孔明 208-285  
 又改道... 拒之... 義経の軍法...  
 朝... 梶原... 記... なる...  
 又改道... 拒之... 義経の軍法...  
 朝... 梶原... 記... なる...



三鼎孔明 208-285  
 又改道... 拒之... 義経の軍法...  
 朝... 梶原... 記... なる...  
 又改道... 拒之... 義経の軍法...  
 朝... 梶原... 記... なる...



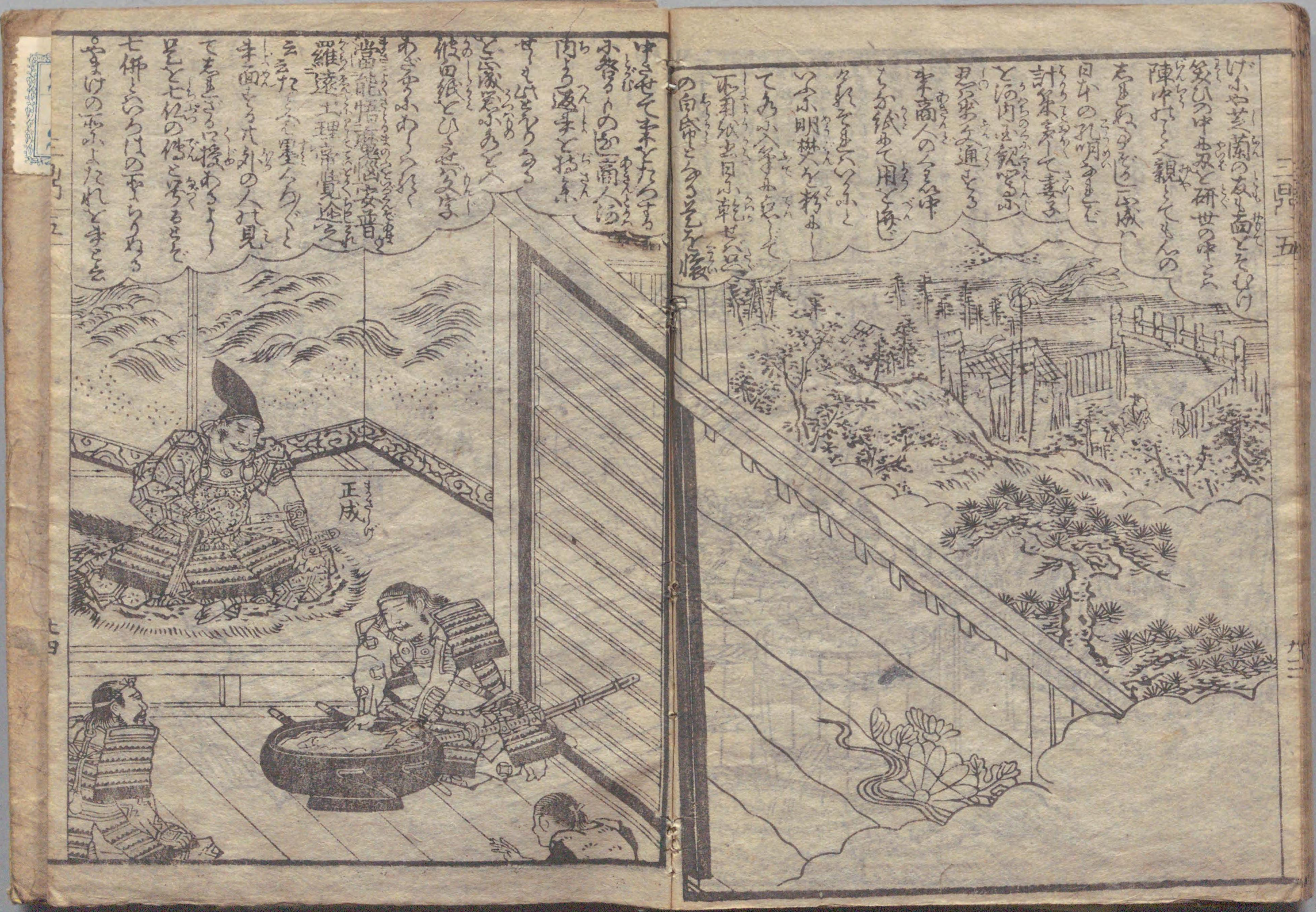






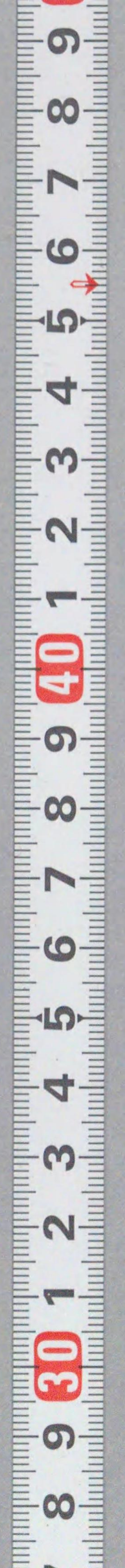






中をせよ末とたつす  
 小登りの内商人  
 肉も返まとお糸  
 せもいさむり  
 と家名ふあど  
 彼白紙といをい  
 わさふわ  
 當龍悟  
 羅遠上理常覺途  
 云々  
 半面とる外の人見  
 てま  
 是と七位の徳と  
 七併とらけの  
 さまの

三  
 五  
 けふ芝蘭の友と高とをむの  
 笑ひの中かよと研世の中  
 陣中かよと親とをむの  
 志とあつとをむの  
 日本のは明か  
 計策まてま  
 との内は  
 君とま  
 半商人の  
 とか紙めて用と海  
 くれ  
 の小明  
 てあ  
 正羽  
 の命と









208  
285

諸葛亮孔明廟記

蘇子瞻識

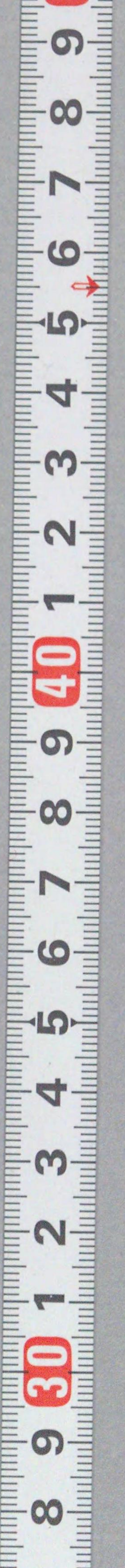
不可當追不可追晝不  
可攻夜不可襲  
多不可敵少不  
可欺前後應會  
左右指揮移五  
行之性變四時之令人也神也  
仙也吾不知之真臥龍也



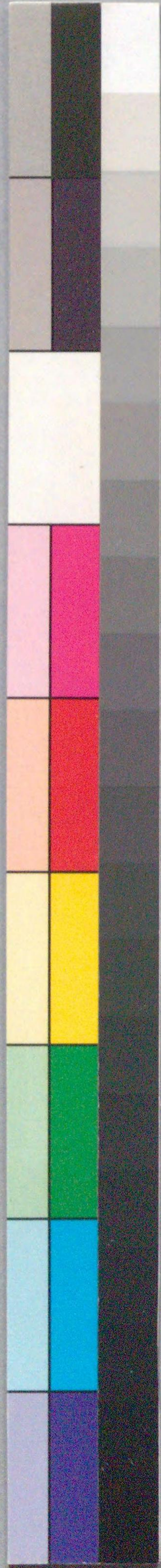


208  
新  
285

孔明三鼎繪本  
五  
一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
二十一  
二十二  
二十三  
二十四  
二十五  
二十六  
二十七  
二十八  
二十九  
三十  
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十







国立国会図書館 繪本三鼎倭孔明 208-285



ガラス使用

